

平成25年度

施策評価マネジメントシート(平成24年度の実績評価)

記入年月日
平成 25 年 6 月 19 日

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	生活安全課	主管課長名	大関 輝夫
402	施策名	防犯及び消費生活対策の推進	関係課	学校教育課、生涯学習課、企画課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	市民 ①市内の犯罪発生件数(1～12月) ②犯罪に不安を感じている市民の割合 ③地域における自主的な防犯団体数 ④消費生活センターへの相談回数	市民	①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,469	42,920	41,897
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449					
見込値													
実績値													
施策の意図		成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
・犯罪による被害から守る。 ・犯罪被害や消費者被害にあわないようにする。		①市内の犯罪発生件数(1～12月)	件	目標値			675	650	625	600	575	550	
				実績値	605	658	495	346					
		②犯罪に不安を感じている市民の割合	%	目標値			50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
				実績値	58.7	59.9	53.9	54.7					
		③地域における自主的な防犯団体数	団体	目標値			13	15	17	19	21	23	
				実績値	10	11	13	15					
		④消費生活センターへの相談回数	回	目標値			530	560	590	620	650	680	
	実績値			267	430	500	516						
成果指標設定の考え方	○『犯罪被害にあわないようにする』に対する成果指標は、③「地域における自主的な防犯団体」が増えていくことで、①「市内の犯罪発生件数」や、②「犯罪に不安を感じている市民の割合」が減ると思われる。 ○現時点においては、『消費者被害にあわないようにする』に対する成果指標は、消費生活センターの充実によって、④「消費生活センターへの相談件数」が増えることとする。これにより消費者被害が未然に防止されることを成果とする。												
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○市内の犯罪件数は警察署調べ ○「犯罪に不安を感じている市民の割合」は市民アンケート ○「自主防犯団体数」「消費生活センターへの相談件数」は生活安全課データ												

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○地域における防犯組織の活動に理解を深め、積極的に参画し、防犯意識を高める。 ○不審者などの発見・監視を行い、特に児童の安全の確保に地域で取り組む。 ○正しい消費知識を習得し、消費上のトラブルに巻き込まれないようにする。 ○行政に対して犯罪や消費上のトラブルの情報を提供する。	○地域における自主的な防犯活動等に対する支援を行う。 ○警察署や学校、地域の関係団体と連携し、地域における防犯・監視体制の強化を図るとともに、防犯意識の啓発に努める。 ○市民への情報提供及び広報活動(広報車・防災行政無線・チラシ等)に努める。 ○消費生活センターにおける相談対応を充実する。
状況変化	3) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4) この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○共稼ぎ世帯の増加により、地域で子どもを見守ることが必要となってきている。 ○犯罪の種類が多様で高度化している。 ○家庭や地域が教育してきたことを学校が教育している。これまで自分たちでやってきたことを行政や教育機関に任せている。規範意識が低下している。 ○高齢者、高齢世帯の増加	○市民アンケートによれば、「犯罪被害にあうかもしれない不安を感じていますか」に対し、24年度は54.7%と半数以上の方が不安を感じている。 ○市民から、屋外の防犯カメラ、防犯灯の設置要望が多い。 ○満足度・優先度とも比較的高い施策分野となっている。 ○住民から空き家に対する適正な管理が要望されている。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 防犯意識の向上	市民	防犯に対する意識を高める	犯罪発生件数	実績値	658	471	346				
				件							
② 防犯体制及び施設の充実	市民 関係機関	犯罪が発生しにくい環境をつくる	地域における自主的な防犯団体数	実績値	11	13	15				
				団体							
③ 消費生活対策の推進	市民 関係機関	消費者被害にあわないようにする	消費生活センターへの相談件数	実績値	194	200	212				
				件							
			相談回数	実績値	430	500	516				
				回							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	23年度実績	24年度実績	25年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	11	12	13
②施策事業費(一般財源以外)	千円	4,044	2,298	14,227
③施策事業費(一般財源)	千円	7,625	9,288	9,340
④施策事業費の計(②+③)	千円	11,669	11,586	23,567
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	15,911	11,585	10,929
⑥計(④+⑤)	千円	27,580	23,171	34,496

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
桜川未来プロジェクト	空き家活用検討事業	
事務事業	防犯施設整備事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	地域安全防犯啓発事業	H24年度貢献度評価上位
事務事業	防犯灯管理助成事業	H24年度貢献度評価上位
事務事業	自主防犯活動組織事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	消費者行政事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位

施策番号	402	施策名	防犯及び消費生活対策の推進	主管課	生活安全課
------	-----	-----	---------------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・市内の犯罪発生件数は、21年度605件、22年度は658件、23年度は495件、24年度は346件となり、前年度に対し149件減少した。要因は東日本大震災以降犯罪が減少しているため、震災が何らかの要因となっているようである。</p> <p>・犯罪に不安を感じている市民の割合については21年度58.7%、22年度は59.9%、23年度は53.9%、24年度は54.7%で前年から0.8ポイント上がった。依然として犯罪に対し、不安を感じている割合が半数以上いると考えられる。</p> <p>・地域における自主的な防犯活動は、子供の登下校の安全を図るための自警団の結成により活発になってきており、21年度に4団体、平成22年度は1団体、11団体、23年度2団体結成され、24年度はさらに2団体結成され、15団体となった。</p> <p>・消費生活センターが平成21年6月に開設され、22年度は430回(内新規相談194件)、23年度は500回(内新規相談200回)、24年度は516回(内新規相談212件)と増加している。背景には「消費生活センター」の地道な周知活動が繋がったと考えられる。</p> <p>・行政区を中心に防犯ボランティア団体の設立が浸透してきており、また防犯連絡員による防犯パトロールなどにより防犯意識が向上していることなども犯罪発生率低下の一因と考えられる。</p> <p>また、消費生活センターの名前も少しずつではあるが周知されてきたため、犯罪発生を事前に阻止することもできてきている。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①市内の犯罪発生件数(1~12月)は、24年度の目標値650件に対し、実績値346件と304件少なく、目標値を大きく上回った。</p> <p>②犯罪に不安を感じている市民の割合は、24年度の目標値50%に対し、実績値54.7%と4.7ポイント多く、目標値を下回った。</p> <p>③地域における自主的な防犯団体数は、目標値15団体に対し15団体と目標値どおりであった。</p> <p>④消費生活センターへの相談回数は、24年度の目標値560回に対し516回と44回目標値を下回った。</p> <p>犯罪の発生件数など大幅に減少しているが、犯罪に不安を感じている市民の割合は目標値に達していないが、これは全国的な犯罪の内容が高度化・複雑化していることなどが原因ではないかと思われる。また、消費生活センターの相談件数も目標値を下回っている要因としては、犯罪手口が巧妙になり騙されていることに気づいていないことや消費生活センターが市民に定着されていないことなどでどこに相談すればいいのかわからない等が考えられる。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・県西地区の犯罪発生率が減少傾向であるが、桜川市はほかの市と比較して大幅に減少している。筑西市8.4%減、結城市16.7%減、下妻市8.9%減となっているが、桜川市は27.8%と他と比較しても大幅に減少しているが、笠間市では1.1%増となっているため、判断は許さない状況と考えられる。</p> <p>・近隣市町の消費生活センターの相談件数は微増となっているが、背景として犯罪手口が巧妙になってきていることから、騙されていることに気づかないことが考えられる。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか、その他の特徴は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>毎年、防犯ボランティア団体が結成されている。多くの団体が「子どもを守る」ということがメイン活動となっているが、防犯意識が高揚してきていると考えられる。</p> <p>消費生活センターについては、周知活動はしているが、まだ市民の中で「身近にある相談センター」として定着されていないことから、今後周知徹底することで市民の期待も高くなると考えられる。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・24年度は、市民全体に対し、「犯罪が発生しにくい環境をつくる」「消費者被害にあわないようにする」を重点意図として事業を行った。</p> <p>・事務事業の貢献度評価の結果から、24年度貢献した事務事業は「防犯施設整備事業」、「地域安全防犯啓発事業」、「消費者行政事業」、「防犯灯管理助成事業」、「自主防犯活動組織育成事業」であった。</p> <p>・「防犯施設整備事業」は通学路の防犯灯整備や岩瀬駅前防犯カメラ設置など実施してきた。また、各行政区から要望のあった防犯灯などについても設置を行っている。</p> <p>・「地域安全防犯啓発事業」は地域安全運動や街頭キャンペーンなどを実施し、啓発を行ってきた。また、「車上狙い防止横断幕」「車上狙い防止プレート」の設置などにより、犯罪抑止活動を行ってきた。</p> <p>・「消費者行政事業」は「消費生活センター」の周知活動することで、消費者が相談できるセンターであることを定着させる目的で行っている。また、出前講座やパネル展示等の啓発活動を行うことにより被害防止につながるよう活動している。</p> <p>・「防犯灯管理助成事業」は各行政区で管理している防犯灯の管理助成として、防犯灯1基につき1000円を助成している。</p> <p>・「自主防犯活動組織育成事業」は行政区単位で、区長を中心として結成の推進を行っている。本年度も2団体結成となり、少しずつではあるが、防犯意識の高揚につながっていると思われる。</p> <p>・その他の事務事業では、防犯意識が高揚しており、犯罪も減少しているが、犯罪が発生し被害者などをケアするための「被害者支援対策」なども講演会などを開催し実施している。</p>
-------------	---

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策全体	<p>・地域安全は、地域で子どもを見守ることなど、地域住民の防犯意識の高揚が必要であり、地域の防犯リーダーの育成や防犯組織の充実が必要となっている。</p> <p>・消費生活センターでの相談体制の充実と、正しい消費知識の習得や消費生活に関するトラブルを防止するための意識啓発の取組みが必要である。</p>	<p>・市民が安心して生活できる犯罪のない明るいまちをめざし、防犯意識の普及と防犯体制の充実を図るほか、防犯灯などの防犯施設の整備に努めます。</p> <p>・消費生活センターでの相談体制の充実と、正しい消費知識の習得や消費生活に関するトラブルを防止するための意識啓発を図ります。</p>
基本事業	①防犯意識の向上	<p>市民が犯罪にあわないようにするため、防犯キャンペーンを開催し、高齢者を中心とした防犯対策の啓発を行います。</p> <p>また、多様化する犯罪に対応するため、犯罪に対する情報を市民に提供していきます。</p>
	②防犯体制及び施設の充実	<p>地域ぐるみの防犯活動を推進するため、自主防犯ボランティア団体の設立や活動を支援します。</p> <p>また、警察や防犯連絡員との連携や防犯灯などの防犯施設の整備により、犯罪の発生しにくい環境づくりに努めます。</p>
	③消費生活対策の推進	<p>・市民が消費者被害にあわないようにするため、随時「くらしのかかわ版」を発行し、市民に最新情報を発信し被害拡大を抑制しながら、高齢者に対してはいろんな角度から啓発活動を実施する。</p> <p>・消費生活センターによる相談対応の充実を図るとともに、出前講座などの啓発活動を実施します。</p>